

## 男子部高等科

### 「エコな暮らしを Old Japan から学ぶ」

前原直美

昨今耳にする“再生可能エネルギー”やSDGsという言葉。そのために日々新しいものが発明され、発表されている。未来を改革するために、新しいものは必要なのだろうか？という疑問から本テーマを調べることになった。

#### I. はじめに

“Sustainable (再生可能)” や、国連が発表した”SDGs “の項目は現在私たちが暮らす地球を守るために真剣に取り組まなければならないこと。しかし、そのために新しい発明や企画を起こすことは本当に必要なのだろうか？そう考えた時、私たちの時代からさかのぼる江戸時代の人々が、実に毎日の暮らしを「エコ」で無駄のない生活をしていることに着目した。その暮らし方は、毎日できる当たり前のこと。お金をかけず、ごみを出さず、再生できるものは徹底してリサイクルする。同じ日本人がやってきたことを再考し、今の暮らしに応用することは、新しいことばかりに目を向けるより容易であると考え、発表準備を始めた。

#### II. 「非電化工房」訪問

栃木県那須塩原にある「非電化工房」は、電気を極力用いないで生活をする藤村氏を訪問した。昔の人たちが家屋建築に用いた杉皮や檜皮でカフェや住まいを建て、冷暖房を極力使わない施設を完成されていた。自分の周りにある物事に対し「これは本当に必要なのか」「自分たちで作れないか」と常に考えられていた。水や電気をふんだんに使う現代の日常を、藤村氏は疑問視され、「今、次の時代を考えなければ取り返しのつかないことになる」と話された。「昔の人の知恵」「昔の人の暮らし」を参考にすることは、時代に逆行するのではないことが実感できた。当然、江戸時代と全く同じような暮らしをすることは不可能だが、取り入れることは可能だと考えた。

#### III. 本との出会い

アズビー・ブラウン氏の「エコに学ぶ生活術」との出会いはテーマを具体的に考えるきっかけとなった。アメリカ人のブラウン氏が江戸の暮らしに着目し、その知恵のすばらしさを述べられた内容は、日本人の私たちにとって新鮮だった。江戸時代、銭湯、汲み取りトイレ、修理屋など需要と供給のバランスが取れた、無駄のない暮らしが実現されていた。「質素な暮らしは決して貧しい暮らしではなかった」とブラウン氏は述べている。

#### IV. 「どのように伝えるのか」を考える

英語でのプレゼンを予定していたので、見てくださる方にわかるようにする必要があった。わかりやすい写真やイラスト、日本語のパワーポイントを英文で説明するのは、八木が様々な工夫をした。5W1Hを用いて、現在の「地球問題」はいつから起こったのか、どこで起きているのか、誰が起こしたのか、なぜ起きているのか、そして何が起きているのか、どのように解決したらよいかというプロセスで、わかりやすくスタートした。現代の技術ばかりに注目するのではなく、何世代にも継承される知恵を見直すことに話を向けていった。江戸の暮らしの中の衣食住にポイントを絞り、できるだけわかりやすい英語で説明を加えた。



必要な意識だといえる。「そもそも使う/消費する量を減らす」というのが今回の発表の着地点となった。

#### VII. 参考文献

- (1) アズビー・ブラウン Azby Brown(2011)「江戸に学ぶエコ生活術 (幾島幸子翻訳)」CCCメディアハウス
- (2) 「Just Enough: Lessons in Living Green From Traditional Japan」Feb. 2010

#### V. 「Old Japan」から学んだこと



江戸時代の人たちの暮らしは、「足るを知る」が基本であったことに、気づいた。狭い間取りの家の中で、使う分があれば足りる、という考え方である。使い切れない分は持たないのだから、無駄になるものはない。たくさんの衣類も食料も持たない暮らしである。それで十分足りるのである。

#### VI. これからの暮らし

江戸時代になくて現代にあり、社会問題となるものはプラスチック製品、車、電気。これらの過剰な使用で私たちの暮らしを苦しめていると考えられている。” Do we really need it/them?” を考えて物を買ひ、使うことがこれからの私たちに